

日出学園の教育目標や生徒たちの学園での様子を発信する年3回発行の情報紙です。



学園通信日出

学園通信「日出」Vol.47 2025年9月30日発行

<https://www.hinode.ed.jp/>

発行：学校法人日出学園

〒272-0824 千葉県市川市菅野3-23-1

MAIL: web@hinode.ed.jp

日出学園公式キャラクター
日和かつば2025.10
Vol.47

特集

幼稚園+小学校での保護者の就労支援

日出学園 卒業生からのメッセージ

バレエも勉強も
がんばり続けた学園生活

HINAKO YAMAGUCHI

谷桃子バレエ団
ファーストソリスト
山口 緋奈子
Yamaguchi HinakoTMB HISTORY
GALA
PERFORMANCES

私がバレエを始めたのは4歳からです。日出学園小学校に入学後も、放課後はレッスンに通い続け、母が運転する帰りの車の中でお弁当を食べて帰ったなんていう記憶があります。

学園生活では、小学校1・2年の担任だった小林先生と同じ電車に乗りたくて、早起きして電車を通ったのも、懐かしい思い出です。高学年の頃は放課後に友だちと遊べない分、毎朝早く登校して、友だちとドッチボールで遊ぶのが楽しみでした。休み時間にはよく友だちと廊下で踊っていました。学芸発表会ではバレエを踊らせていただく機会をいただき感謝しています。

中学校・高等学校に進んでからは、体育祭の応援団に毎年参加していました。先輩方にダンスを教わったり、年齢関係なくみんなで一緒に何かを作る楽しさを覚えました。この頃から芸能活動も始め、バレエと勉強との両立はますます大変にな

りましたが、通学の電車内やバレエのレッスンまでのわずかな時間にカフェで勉強したりと、勉強もバレエも手を抜かずがんばり続けながら、充実した毎日を送ることができました。

2014年3月、高校卒業後に現在所属する谷桃子バレエ団のオーディションに合格し、4月から団員として入団しました。バレエ団では初めはコールドという群舞の役を経験させていただき、少しずつソロの役を踊らせていただくようになり、2017年にはソリストに昇格。『くるみ割り人形』の金平糖の精役で主演デビューしました。

その後、2023年にファーストソリストに昇格し、さらなる高みを目指して自分と向き合いながら日々過ごしています。バレエ団以外でも『滝沢歌舞伎』の公演に7年間出演させていただき、たくさんの経験を積むことができました。

私が日出学園に通っていた当時から、先生方は

バレエや芸能活動を応援してくださり、今でも舞台を観に来てくださって、私にとってこの学園はとても温かい家族のような学校です。

日出学園での学園生活とともに、バレエを諦めずに努力し続けてきたことすべてが、今の自分に活かされています。好きなことはとことん大切に、学生としてやるべきことに全力で取り組み、これから先、いろんなことがあっても、それまでやり続けてきたことすべてが糧となり、困難なことも乗り越えられると思います。皆さんも、何事も楽しんで、頑張ってください!!

●プロフィール

4歳よりバレエを始める。2014年、谷桃子バレエ団に入団。2017年『くるみ割り人形』にて主演デビュー、2023年ファーストソリストに昇格。『眠れる森の美女』オーロラ姫、『レ・ミゼラブル』コゼット、『ジゼル』ミルタ、『白鳥の湖』オデット/オディールなど様々なレパートリーで主要パートを踊る。その他、TVCMやバレエ雑誌、舞台『滝沢歌舞伎』に出演。

巻頭言

ご家庭と連携しながら
安心できる保育環境を

日出学園幼稚園
保育長

石橋 由美子

さらに就労支援の一環として、降園後に参加できるわくドキくらぶ、スポーツクラブ、はなまる学習会に加え、ECC、硬筆習字、年中・年長クラスのアーデルスミミング、年長クラスの造形教室と、課外教室を複数開講しています。これらの活動を通して、園児が楽しく学びながら過ごせる時間を提供しています。また昼食は、週2回のわくドキランチに加え、週1回の注文弁当も利用できるようになりました。

これからも、ご家庭と連携しながら、安心してお子さまを預けられる環境づくりに努めてまいります。

安心で充実した
放課後と学校生活

日出学園小学校
教頭・教務部部长

北村 小百合

児童が安心して学校生活を送り、保護者の皆様が安心して

働ける環境を整えることは、私たちの大切な使命です。日出学園小学校では、共働き世帯や多様な家庭のスタイルに寄り添いながら、就学支援の取り組みを進めてきました。

放課後の学童保育「ひのキッズ」では、「明光キッズ」の専任スタッフが温かく見守る中、宿題やおやつ、自由遊びをはじめ、興味に応じた習い事まで校内で行うことができます。

夏休みなどの長期休暇中も朝から夕方まで利用可能です。また、放課後に外部の塾へ通わずとも、学校内でしっかりと学べる高学年

向けの「学習コース」もあります。基礎の復習や応用的な学びに取り組みながら、児童の学力を丁寧に支えます。

また、年度のはじめと終わり以外の保護者懇談会、説明会、個人面談時にどうしてもお仕事の都合で来られない方はZoom(またはGoogle Meet)の利用ができ、昼食も手作り弁当に加えて注文弁当も利用できるなど、日々の生活に寄り添った支援も整えています。

児童がのびのびと学び、笑顔で毎日を送るために、これからも保護者の皆様とともに、児童にとって安心して豊かな毎日を育んでいきたいと思っています。

「本園では、ひとりひとりの園児に寄り添いながら、安心

して過ごせる時間と空間を大切に、保護者とともに園児の成長を支える」という理念のもと、保育と支援に取り組んでいます。

共働きのご家庭が増える中、登園前は午前7時30分から、降園後は午後7時まで預かり保育を行い、代休や長期休業中もできる限りお子さまをお預かりしています。朝預かりは20名前後、降園後は40名前後の方が毎日利用されています。また入園式前の4月1日から利用される新入園児の方も年々増えてきています。

特集《幼稚園＋小学校での保護者の就労支援対応》

幼稚園＋小学校での
保護者の就労支援

市川市の「子ども・子育て支援事業に係る基礎調査(調査期間：令和5年12月15日～令和6年1月9日)」によると、フルタイム・パートタイムで働く母親の割合は全体の74%（産休・育休・介護休業中を含む）で、前回の調査(平成30年)の57.4%よりも16ポイント以上増えています。共働き世帯が増える中、子育てと仕事の両立のためには、園児や児童を預かる学校側のサポートはもはや欠かせません。今回は、日出学園の就労支援について特集しました。



幼稚園
預かり保育・課外活動の拡充による
より預けやすい保育環境

日出学園幼稚園が共働き世帯の子育て支援・就労支援策として預かり保育を開始したのが2011年。以来、保護者の方々のニーズに応え、仕事と子育ての両立をサポートできるよう、就労支援策の拡充に努めてきました。

2022年4月には市川市の「就労支援型預かり保育」の認定幼稚園となり、その預かり時間も延長し、現在は月曜日から金曜日まで、登園前の午前7時30分から、降園後は午後7時まで、最大11時間30分まで園児たちは幼稚園で過ごすことが可能です。

幼稚園の長期休業期間中も預かり保育を実施し、今年の夏休み期間中の預かり保育では毎日25名前後(お盆の期間中は10名前後)の方に利用いただきま

した。例年、夏休み中の預かりでは、水遊びを中心に園庭での活動を行ってきましたが、近年は暑さが厳しく外遊びが難しいため、室内でも楽しく過ごせるよう、工夫したカリキュラムで安全に配慮した保育を行っています。

特に長期休業中は、同学年の園児同士で遊ぶだけでなく、年長組の園児がリードして年下の園児と遊んだり、全ての年代がホールなどで一緒になって遊んだりするのも、預かり保育ならではの光景です。

また、園児によっては午後の預かりが5時間近くになるため、有意義に過ごせるような課外活動も充実。巻頭言でもご紹介したように、預かり保育の中でも園児たちが楽しく学べる保育環境を整えています。



夏休み中の預かり保育の時間で行われた造形教室

保護者
INTERVIEW

内野 勝行さん

コロナ禍での預かり保育には感謝しかありませんでした



私どもは今、小学5年生になる長男が日出学園幼稚園に入園して以来、現在小学2年生の次男、年少の三男と、息子たち全員が幼稚園から日出学園にお世話になっています。

私は東京の金町で神経内科のクリニックを開業し、外来と訪問診療を行っています。妻は歯科医師としてこちらも訪問診療を主体に、患者様を診ております。最初、長男を日出学園幼稚園に通わせていた時は、私どもは松戸市に住んでいて、もっぱら妻が朝も夕も長男の送り迎えをしていたのですが、あまりにも大変だということになり、幼稚園2年目からは園から15分ほどのところに引っ越してきました。

どうしてもお迎えの時間に間に合わないような時でも、お電話すると鍛冶園長先生が「大

丈夫ですよ」と優しくおっしゃってください、たいへん心強く感じました。コロナ禍の時も、多くの学校が休業を余儀なくされる中で、日出学園はいち早く再開してください、子どもたちを通わせてくださいました。当時、医療従事者やその家族に心無い偏見を持つ人もいの中で、安心して子どもたちを預けることができたことには、本当に感謝しかありません。

私の父はトンネルの電気設備の技術者で、現場責任者として全国のトンネル建設現場を渡り歩いていました。家族もそれに同行し、私は小学校に入っても転校ばかりしている学校生活でした。それだけに、自分の子どもには、心の故郷ともいべき「母校」と呼べる環境を与えたいと思っていました。

私は日出学園の出身ではありませんが、大学時代の同期や先輩に、日出学園出身の方が何人かいます。皆さんとても穏やかな方たちばかりです。自分の子どもたちも、こちらの学校で「なおく、明るく、むつまじく」の校訓のとおり、育ってくれたらと思います。

3人の息子たちにとって、この学園が心の故郷というべき「母校」になってくれると良いなと思っています。

小学校
アフタースクール「ひのキッズ」は
預かりと学びの有意義な場

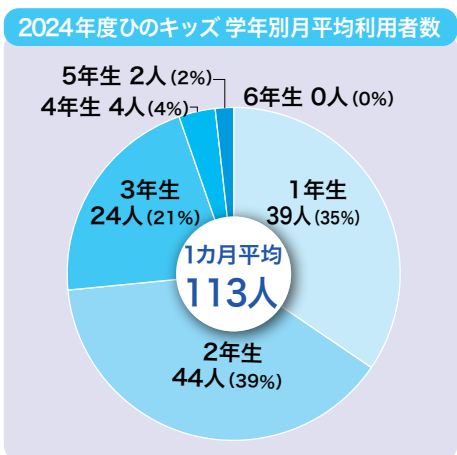
2022年4月よりスタートした、日出学園小学校でのアフタースクール「ひのキッズ」。今年で4年目を迎えます。入学説明会などで「ひのキッズ」の活動内容を案内しており、開設初年度から多くのご家庭に利用いただいています。特に1年生から3年生の低学年児童の利用が多く、2024年度の月別平均利用者数113人のうち、全体の95%を占めています(右円グラフ)。

「ひのキッズ」はいわゆる学童保育として、放課後や長期休業中に児童を預かり、宿題を済ませ、独自のテキスト『あいキャン』を使い、各自のペースで取り組みながら、学習習慣を身につけさせます。

さらに、サッカー、ダンス、算盤、硬筆、英会話、プログラミングの習い事を揃え、児童た



「学習コース」は放課後に通う個別指導塾のような位置付け



ちは自分の興味のある習い事で放課後を有意義に過ごします。

また、2024年度より「ひのキッズ学習コース」が加わりました。こちらは4年生以上を対象に、個別指導による、算数・国語・理科・社会・英検対策の5教科を学べます。帰宅せずに学校内で通える塾のような位置付けで、現在この学習コースは、毎月30名を超える児童が利用しています。

校内にある学童保育の「ひのキッズ」は、児童にとっては友だちと放課後に一緒に過ごせる、安心な居場所となっています。

我が家では昨年、長女が日出学園小学校に入学したのに合わせ、次女も日出学園幼稚園の年中クラスに入園し、姉妹ともに日出学園にお世話になることになりました。

それまで長女と次女は家の近くの同じ保育園に通っていたのですが、長女が小学校に進学する際、いろいろ学校見学をさせていただきました。日出学園小学校の授業体験会やお楽しみ会にも家族で参加して先生方と触れ合う中で、娘自身が「日出学園がいい!」と、娘の意思でこの学校への入学を決めました。

次女も、みんなと一緒に歌を歌ったり、ワークをするのが好きなので、幼稚園のほうが合っているのかなと思い、入園させることにしました。

一方、親の立場としては、日出学園は小学校も幼稚園も併設されていて、しかも小学校にはアフタースクールがあり、幼稚園も登園前や降園後、さらに長期休業中も預かり保育をしてくださるといのが、小学校や幼稚園を選ぶポイントの1つでした。

私は大学卒業後、ずっと東京・大手町にある金融機関に勤めており、夫は家業の不動産会社を継いでいたので、子どもができてからもお互いサポートしながら仕事と育児・家事を両立させたいとこれまでやってきました。しかし、2人の子どもを保育園へ送迎することは本当に大変でした。

今は夫が比較的時間の融通がきくために、毎朝、長女と次女と一緒に電車に乗って送り、次女は午前9時過ぎの登園時間まで、預かり保育

保護者
INTERVIEW

酒巻 美紀さん



アフタースクール、預かり保育が
学校選びのポイントの1つに

を利用させていただいています。

放課後は、長女は月曜日から金曜日まで、ひのキッズで宿題をしたり、プログラミング教室やサッカー教室で楽しく過ごし、午後5時に下校して同じ方向のお友だちと帰ってきます。次女は午後も預かり保育を利用していますが、あまり遅い時間までですと疲れてしまうので、午後4時ごろには夫がお迎えに行き帰ってくるという日常です。

子育てと仕事を両立させるのは、どこのご家庭も本当に大変だと思います。特に女性の場合、自身のキャリア形成と育児の両立には、時間や体力に限界があるのも事実です。でも、私は自分の働く姿を娘たちに見せながら仕事を続けていきたいと思い、夫も率先して育児に関わってくれています。日本でも今後、女性の社会進出が加速する中で、夫婦で力を合わせて、家事も仕事も育児も協働する時代が来ると感じています。

親の背中を見ながら、子どもたちが育っていったら嬉しいですね。ひのキッズ、預かり保育に大変感謝しております。



Topics

幼稚園

白百合女子大学による STEAM教育と健康教育を融合させた特別授業 「けんこうはかせになろう」を開催 6月18日㊤

6月18日、白百合女子大学人間総合学部初等教育学科の石沢順子教授らによる特別授業「けんこうはかせになろう」が、幼稚園年長クラスで行われました。

この授業は、STEAM教育(科学・技術・工学・芸術・数学)と健康教育の融合により、園児たちが自分自身の健康に関心を持ち、普段の生活の中で健康への働きかけを実践できるようにすることを目指すものです。当日は石沢教授ほか、椎橋げんき准教授、3名の大学生が授業に加わり、健康的な生活に欠かせない5つの生活習慣「排泄」「手洗い」「熱中症予防」「汗の役割」「食事」について、園児たちを指導しました。

この授業はスタンプラリー形式で構成され、園児たちは正しい手洗いの仕方を実践し



食べ物の色の組み合わせで健康的な食事を学びます(左・石沢教授)



きちんと汚れが取れる手洗いの仕方をポスターを見ながら実践

たり、絵本を見ながら排泄の大切さを改めて知ったり、クイズ形式で健康的な食事について学んだり、五感に訴えるような体験を通じて、健康について理解を深めていきました。

「今回の授業にあたっては、事前に幼稚園の鍛冶園長先生から、なぜ排泄が大切なのか、栄養バランスの良い食事がなぜ必要なのかといったことを、楽しく体験しながら気づけるものに、というご提案を受けて考えさせていただきました」(石沢教授)

約1時間の授業で5つのプログラムを体験した園児たちの表情からは、日頃意識せずに行っていた健康のための生活習慣について、改めて理解を深めた様子がうかがえました。

「けんこうはかせになろう」の授業の様子はQRコードからご覧いただけます▶



幼稚園

《山の幼稚園》7月4日㊤～7月5日㊤ 初めての宿泊学習の準備を日々の保育の中で



1959年から始まった《山の幼稚園》は、日出学園幼稚園の年間行事の中でも、特に伝統ある行事です。年長クラスの園児たちは親元から離れて日出学園の軽井沢山荘で1泊2日の宿泊をしながら、さまざまな経験を積み、たくさんの思い出を刻みます。この軽井沢での宿泊学習は、自分のことは自分でできるようにしたり、グループで協力しながら与えられた役割を果たすなど、小学校に進学するための就学前準備の学習機会でもあります。

山の幼稚園では、グループごとにまとまって行動し、グループのメンバーには、「点呼係」「夜ごはん係」「朝ごはん係」「お手伝い係」の4つの係が割り振られます。6月9日、そのグ



到着後、軽井沢山荘前で記念撮影。いよいよ山の幼稚園の始まりです

ループ分けが行われ、それぞれのグループで園児たちだけの話し合いによって係が決められました。

話し合いをまとめる園児が自然発生的に生まれ、自分から手を挙げてやりたい係を名乗り出る園児、希望の係が重なったらジャンケンで決めるなど、大人顔負けの話し合いで係が決められていきました。そして、その日から、ごはん係がランチの給食を配ったり、皆で行動する時に点呼係が人数を確認して先生に報告するなど、普段の保育の中で宿泊学習の準備が進められていきました。

また、山の幼稚園でお土産を園児自身で購入するための準備として、中学校・高等学校の購買部でお買い物をするなど、お金の扱い方も体験しました。

そして本番の山の幼稚園。園児たちは自分の役割を果たし、自分で行動することができたのでしょうか……。

山の幼稚園に向けた園での準備の様子、現地での様子は、QRコードからご覧いただけます▶



小学校

「新緑の大運動会」 暑さ対策で各学年団体競技を 2学年合同で実施 6月1日㊤

温暖化の影響による気温の上昇は、学校での授業や学校行事にも影響を及ぼすまてなってきました。6月1日の日曜日、小学校では「新緑の大運動会」が行われました。炎天下で競技をしたりダンスを披露したりする児童や、プログラムに参加する幼稚園児、応援する保護者の方々の、熱中症リスクを少しでも減らすため、気温がピークとなる午後2時までに全競技が終了するよう、プログラム全体の見直しを図りました。

例年行われていた4年生の「台風の目」、5年生の「棒倒し」、6年生の「騎馬戦」の3つの団体競技に替わって、2学年合同の団体競技として、1・2年生の「紅白玉入れ」、3・4年生の「大玉送り」、5・6年生の「綱引き」と、学年による体力差が生じにくい団体競技を組み、全体の時間が短縮しました。

「2学年合同の種目でも、児童たちが皆が輝けるよう、動線や競技の仕方を考え、スムーズに進行できるようにするのが我々教員の役目。事前に学年の先生たちと話し合いを重ね、合同練習で実際にやってみて、さらに予行で確認して当日に臨みました」(体育科・西谷俊紀先生)

運動会では教員や係の児童も裏方として運動会を支えます(学園通信「日出」VOL.44既報)。今年は、予定されていた5月31日が雨天で1日順延。当日の朝もまだグラウンドにはぬかるみがありましたが、父の会の皆様のご協力を得て水を吸い取り、無事運動会を開催することができました。改めて、保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。



1・2年生の合同団体種目の玉入れ。人数が多いために玉の数も増やしました

運動会に向けての学年合同練習や運動会当日の様子はQRコードからご覧いただけます▶



3・4年生を対象に、「おいしい」出張授業 「カルビー・スナックスクール」開催



「おやつの適正な摂取カロリーは?」「おやつは何時ごろ食べればいいのか?」「賞味期限と消費期限の違いは?」——。そんなおやつにまつわる疑問や、「食」について学ぶ機会として、6月9日、ポテトチップスでお馴染みのカルビー株式会社から講師の方々が出学園小学校に来校。3年生(3・4時間目)と4年生(5・6時間目)を対象に「カルビー・スナックスクール」が開かれました。

この出張授業には、「保健＝1日のおやつを目分量や食べる時間」、「社会科＝ポテトチップスの原料の栽培から収穫、製品化までの流れ」「家庭科＝食品表示の見方」などの学習要素が含まれています。

今回、この出張授業を取り入れた、体育科の後藤紗智子先生は「教科書を使った座学で教えるだけでなく、ゲーム形式や視聴覚教材を使いながら、児童たちに楽しみながら学んでもらいたいという考えから、カルビーのプログラムに応募しました」と語っています。

多目的室で行われた授業では、ポテトチップスを使いながら、普段自分たちが食べているおやつを量を計測してクイズに答えたり、グループで話し合いながら、適正なおやつと飲み物の組み合わせを考えたり、最後には教材で使ったポテトチップスをいただくというおまけもあり、児童たちにとっては「おいしく」学ぶことができた特別授業でした。



クイズ形式の「カルビー・スナックスクール」グループで答えを考えます

「カルビー・スナックスクール」の授業の様子はQRコードからご覧いただけます▶



吹奏楽クラブがイオン新浦安 SCで ライブ演奏を披露 6月22日㊤

6月22日、初夏の日曜日、大勢の買い物客で賑わうイオン新浦安ショッピングセンター(千葉県浦安市)に、日出学園小学校の吹奏楽クラブの軽快で明るい音色が響き渡りました。この日行われたのは、同ショッピングセンターのイベント企画「ハッピーフェスタ in 新浦安」という地域コンサートで、地域の吹奏楽や管弦楽、ダンス、合唱など10の団体が招待され、演奏やパフォーマンスを披露するもので、小学生の団体では、唯一、日出学園小学校吹奏楽クラブが参加しました。

吹奏楽クラブ顧問の織間将先生の指揮に合わせ、26名のクラブメンバーが披露したのは「士官候補生」「夢をかなえてドラえもん」「おどるぼんぼり」の3曲。今回はショッピングセンターという公共の場所での演奏とあって、最初は緊張の面持ちでしたが、演奏が始まると本来の実力を発揮、イベント会場を取り囲むように児童たちの演奏に耳を傾けていた聴衆の方からは「皆さん小学生? とても上手ですね!」というコメントもいただきました。

今回のライブ演奏は、会場を訪れた多くの人に、日出学園小学校をアピールする、絶好の機会となったようです。



1階特設ステージの吹き抜けの空間に、吹奏楽クラブの音色が響き渡りました

「イオン新浦安SCでのライブ演奏の様子はQRコードからご覧いただけます▶



Topics／部活／ひと／2026年度入学者対象 学校紹介イベント・募集要項

中学校 ・ 高等学校

高等学校軟式野球部が 第73回春季千葉県大会で準優勝 春季関東大会・夏の千葉県大会でも健闘

日出国園高等学校軟式野球部が、「令和7年度第73回春季千葉県高等学校軟式野球大会」で準優勝し、関東大会へと進みました(優勝：拓殖大学紅陵高等学校)。

4年生4人、2年生4人、1年生4人で臨んだ関東大会では、1回戦(5月31日)で、群馬県2位の群馬県立前橋高等学校を7対2で下し、2回戦(6月2日)は東京都1位の早稲田大学高等学院と対戦。試合会場の群馬県安中市の西毛総合運動公園



「勇気・親切・笑顔」がスローガンの日出国軟式野球部

野球場には、平日にも関わらず保護者による応援団が駆けつけて熱い声援を送るも、試合は2対5で敗退という結果に終わりました。1回戦でランニングホームランを打った鬼形隆之介キャプテンは、関東大会での経験を通じて、「他県の上位チームと互角に戦えるということがわかりました」と、迫る夏の大会への自信をのぞかせていました。

満を持して臨んだ夏の千葉県大会(7月22日国府台スタジアム)。日出国園は1回戦、春の大会に勝利した八千代松蔭高等学校にまさかの敗退。悔しい思いを残して3年生たちの部活は終わりを告げました。

この日の雪辱を、ともに戦った2年生や1年生、応援していた中学校野球部の部員たちが、いつか晴らしてくれることでしょう！



◀春季関東大会2回戦の早大学院とのゲームの模様はQRコードからご覧いただけます

全国少年柔道大会で準優勝した 山本晃誠さんが技術優秀賞を受賞

今年5月4日・5日の2日間、東京の講道館で行われた「第45回全国少年柔道大会」で、6年3組の山本晃誠さん(写真左)が所属する「深川錬磨会(東京都)」が準優勝し、山本さんは技術優秀賞を受賞しました(全10名が受賞)。

山本さんが柔道を始めたのは5年生になってから。「柔道での得意技は？」の質問に、「大外刈りと払腰です」と答える山本さん。わずか1年ほどで全国2位の栄誉をつかんだその潜在能力の高さには驚くしかありません。それもそのはず、山本さんのお父さんは大相撲の元力士、豊真将関で、引退後は故・寺尾関が親方を務めた鍛山部屋を継承し、現在は親方として後進の指導にあたっています。

山本さんは柔道は6年生までやり、中学からは本格的に相撲に取り組むそうです。「将来は大相撲で横綱になることが夢」と語る山本さん。角界に進んでも、その大きな投げ技で観る人々を魅了してください。



小学校

JOC ジュニアオリンピック杯に 萩原緋琉さんが出場。

オリンピック選手への登竜門とも言われる、「第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会東京都予選」(2月22・23日 東京アクアティクスセンター)に、6年3組の萩原緋琉さん(写真右/クラブチームStyle1所属)が。11歳クラスの50m平泳ぎで1位となり、3月27日からの全国大会に進みました(当時5年生)。

「0歳から水泳をはじめ、4歳の時には全種目泳げるようになりました」という萩原さん。この夏の関東地区の水泳記録会でも1位となり、伸び代は無限大です。所属するクラブチームにはオリンピック選手が所属し、萩原さんはその選手の同年齢時の記録をすでに上回っているとのこと。将来、日出国園からオリンピック選手が誕生するのも夢ではありません。

「オリンピック出場と救急救命医になるのが目標です」という萩原さん。水泳に勉学に精一杯励み、ぜひとも新たな“二刀流”を実現してください。

2026年度 新入園児・児童対象《学校紹介Event》開催

小学校 「授業体験会」6月21日

未就学のお子さんと保護者が実際に小学校での授業を体験し、日出国園小学校の様子、先生の授業での教え方などを直に知っていただく「授業体験会」が今年も6月21日(土)に行われました。

当日は1教科約15分の授業を2コマ(webで事前申し込み)体験します。授業は普通教室のほか、理科、図工、音楽、情報は各専用教室、読書は図書館、体育はアリーナ2で行われ、教員たちは皆この日のために、未就学児の子どもたちに授業を楽しんでもらったり、興味を持ってもらえるよう、それぞれ工夫した授業が行われました。

最初は緊張していた子どもたちも、教員の巧みな



先生の質問に子どもたちは1年生になったつもりで、「はい！」

授業展開ですぐに打ち解け、授業に集中している様子がうかがえました。そんな子どもたちが、来春にはピカピカの1年生となって日出国園に通うのを、心待ちにしましょう。

小学校 「親子体験会」8月23日

毎年夏恒例の、未就学児対象の「親子体験会」。今年も8月23日(土)、開催されました。事前に参加申し込みをいただくこのイベントは、親子ともども人気ということで、当日、視聴覚室はお集まりいただいたご家族で満員御礼になりました。

小学校をテーマパークのようにして設けられたアトラクションを、スタンプラリー形式で回るこのイベントの今年のテーマは「白雪姫」。先生たちが白雪姫や王子様、小人などに扮して子どもたちと写真を撮ったりしながら交わっていました。



白雪姫(黒崎先生)とハイチーズ！



屋上プールでの水遊びは、毎年盛況です

この日は気温36度の猛暑日。屋上のアトラクション、「森のみずうみ」のプールも、水温がぬるめを感じるほどでしたが、子どもたちはびしょ濡れになりながら水鉄砲で的を狙ったり、ボール遊びで楽しんでいました。来年の夏は、また皆さんと、この屋上プールで遊びたいですね。

幼稚園 「夏の親子お楽しみ会」7月26日

幼稚園の夏休み期間の恒例イベント、「夏の親子お楽しみ会」を今年も7月26日に開催しました。このイベントは、未就園児のお子さんと保護者の方々を幼稚園に招いて、幼稚園ホールに設けられた「さかなつり」や「金魚すくい」「ひもとおし」「玉入れ」などのアトラクションを、幼稚園教員と交流しながら楽しんでいただき、日出国園幼稚



子どもたちも幼稚園の先生たちに合わせ、一緒にダンスを

園の雰囲気親子でもらうと、毎年企画されています。

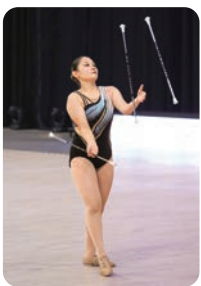
参加親子の中には、日出国園小学校や幼稚園に通う兄弟もいたり、土曜日開催ということもあって、多くのご家族がお父様と一緒に参加されるなど、夏の縁日をご家族で楽しまれているような様子でした。

イベントの後半は、幼稚園の先生たちが夏休みに入ってから練習を重ねてきた『赤ずきん』の劇や、『小さな世界』 its a small world』の合奏を披露したり、子どもたちと一緒にフラダンスを踊ったりと、和やかなひと時が繰り広げられました。

バトン世界選手権(トリノ開催)で神原葵さんが2位！

8月8日から10日にかけてイタリアのトリノで開催された、「2025年IBTF世界バントワーリング選手権大会」に、日出国園バントワーリング部の神原葵さんが女子ジュニア・スリーバトンの部で日本代表に選出され、世界大会2位の栄誉を手にした。

「初めての世界大会で、準決勝では緊張と不安で足が震えましたが、決勝ではコーチの励ましで覚悟を決めて踊りました」と、神原さん。決勝の演技で最後の大技を決めた時にはうれしさが込み上げ、会場全体が輝いて見えたそうです。



神原さんがバトンを始めたのは3歳から。そして

13年目にしてつかんだ世界第2位という栄誉。今後の目標を尋ねると「バントワーリングはIBTF世界大会が最高峰の大会です。次はシニア部門でまたこの世界大会に出場することが夢であり、目標です。まだまだ未熟ではありま

すが、もっともっと頑張って、皆さんに憧れてもらえるような選手になりたいです」とのことです。神原さんの演技を間近で見る中高生や小学生たちは、きっと神原さんに憧れ、世界への道を目指してくれることでしょう。

中学校 ・ 高等学校

久川晴葉さん、高校生手話スピーチコンテストに出場

第42回「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」

(主催:全日本ろうあ連盟、朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社)に、4年生の久川晴葉さんが、原稿とスピーチ映像による予選に応募し、見事予選を通過。8月31日(日)、東京・有楽町朝日ホールで行われた全国大会に出場しました。大会には秋篠宮家の次女・佳子内親王殿下がご臨席され、手話でご挨拶を述べられました。

予選を通過した10名の高校生は、「私が出会った忘れられない言葉」「今の社会に足りないもの」をテーマに、それぞれの意見や思いを手話で訴えました。



久川さんは、ろう学校の教員であるお父様から「高校生の手話スピーチコンテストがあるけれど、出てみたら？」との誘いを受けて、高等学校入学直後から本格的に手話を習い始め、コンテストに応募しました。

入賞こそ逃した久川さんですが、「参加者の皆さんと手話でしりとりをしたり、同じ高校生同士で楽しく交流できたりしました」とのこと。夏休み最終日、大勢の聴衆を前にした手話スピーチは、久川さんにとって貴重な経験になったことでしょう。

コンテストでの久川さんの手話スピーチはQRコードからご覧いただけます▶

(素材提供:社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団)



90周年記念事業募金で飛行機型遊具が完成

創立90周年記念事業の一環として建設していた、幼稚園の新しい遊具が完成いたしました。人気の飛行機型遊具や螺旋橋等も備えたこの遊具は、安全面にも配慮された設計で、「遊びを通じての成長」をますます促してくれることと思います。幼児教育における「自ら考え行動できる」プログラムを今後も推進し、園児の知力・体力を育て参ります。記念事業募金にご協力いただいた皆様には、改めて厚く御礼申し上げます。



編集 後記

文武両道の成果が現れた、この夏

この号でもお伝えしていますように、今夏、高校2年生の神原葵さんがバントワーリングの世界大会で2位入賞という素晴らしい成績を収められました。神原さん以外にも、全国規模の大会に出場し、成果を発揮した団体・個人が多数いらっしゃいます。日出国園の運営方針にも掲げています「文武両道の追求強化」が、実績となって現れています。さらなる研鑽と成果を期待します。

編集発行人 学校法人日出国園 学園長 青木 貞雄

学園通信「日出」Vol.47 2025年10月号

※本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

発行 2025年9月30日
編集発行人 青木 貞雄(学校法人日出国園 学園長)
編集 学園通信「日出」編集委員会
幼稚園 池部かほり 澤居未来
小学校 廣嶋秀行 長谷川 亜姫子 日下瑞穂
中学校・高等学校 石川 茂
法人企画室 児玉尚樹 児玉孝喜 渡邊込樹